



「南稜の私が伝えたい事」

コーナー



（続）南稜校区内の神社・主祭神のプロフィール < その1 >

◇倉稲魂命(うがのみたまのみこと)【古事記】・・・大崎の「稲荷社」

◇宇迦御魂神(うかのみたまのかみ)【日本書紀】・・・船渡の「幸稲荷神社」

倉稲魂命並びに宇迦御魂神は、同一の男性神である。神名の由来として、宇迦は食(うけ)と同じ意で食物の意味である。「稲に宿る神秘的な精霊」という意で、五穀・食物を司る神とされる。畢竟、稲の精霊を神格化した神で、多く稲荷神社の祭神となっている。ほかには登由宇気神(豊受大神)、保食神などがある。

◇保食神(うけもちのかみ)(記紀神話の女神)・・・船渡の「社宮神社」

保食神は、伊弉諾(いざなぎ)・伊弉冉(いざなみ)の二神の御子で、五穀の主宰神である。日本書紀では、五穀起源の神話は月読尊(つくよみのみこと)と保食神のこととして語られている。高天之原(たかまのはら)の天照大神に命じられて、月読尊が葦原中国(あしはらのなかつのくに)に保食神の状態を観察に行ったところ、口から色々な食物を吐き出しているのを、穢わしいと一喝。殺害してしまった。この月読尊の行為に天照大神は激怒。両者は仲違いし、昼・夜を分け持ち、別れて住むようになったという。その後、天照大神は天熊大人(あめのくまうし)を遣わして保食神の様子を検分。その亡骸より、粟・稗・稲・麦・大豆・小豆・牛・馬・繭が化生していた。これらを天照大神に献ずると絶賛。穀物の種子とされた。保食神は「大宣都比売神(おおげつひめのかみ)」とも称される女神。

投稿：ルポライター 野依のM・Y